

琉球大学学術リポジトリ

日米関係（沖縄返還） 19

| | |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: 出版者: 公開日: 2019-02-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/20.500.12000/43794 |

東郷局長出張報告

ワシントン

極秘

華盛頓五張報出

44.5.1

半日在

1. 本官 6日外務大臣訪米に備へ、4月24日付
ポジラン・ペイローの趣旨を徹底しおこたせ
4月28、29日ワシントンにおいで半日同僚等
らと懇談せしむ。累次会議に於いて公電
を以て報告せしむるを補途等々下記報告
する。懇談相手方次のとおり。

- (イ) 國務省
 - リンソン 次官
 - グリーン 次官補
 - ブラウン 次官補 代理
 - フィン 日本部長
- (ロ) 大統領府
 - キッペンジャー 大統領補佐官
 - スタイン 補佐官
 - ハルパリン 補佐官
- (ハ) 閣僚等
 - パッカート 次官
- (ニ) 陸軍省
 - リーゾア 次官
 - リエナ 次官補

2. 懇談の各相手方の印象につき、懇談の順序に従い
下記す如く次のとおり。

- (イ) スタイン 補佐官

安全保障問題に對しては自他共に許す米防務
内に於ける第一人者との自覚あり。(但し同人の「自衛通」
はオズボーン次官が同様に「自衛通」であること
は自衛時代の感覚を覺えしめるものあるとは
趣を異にする)。核及び自衛兵器に對し何れも
極めて固い態度を示したるも、右は外務省の同
僚の指針にある audience 向けのものであり、自衛と
半日在 向けに委せしめしむれば立ちどころに解決
し得べし等とひそかに洩らし居たり。
- (ロ) ブラウン 次官補 代理

滋味なる人柄より事の真相を極めて明快正確
に捕握し居たり。我方提案に對し、如何様なる
取組みにせよ半日の自衛諸君の安全保障不確保
の努力を祈願するものありと云ふこと
では如何に半日を納得せしめ得ざるやと
切々と視くとし、人にその決意を感せしめる
ものあり。其の故に自由平等の實際問題に

付、充分の用意を以て、我々との協会に臨む、心算を示したり。

(1) リーズ陸軍省

極めて興奮した人物の印象あり。沖縄に同じくは、返還問題につき充分の研究を行つていふと云ふ事は、グレンの地視状の7にあつて、沖縄基地の補給等 conventional use に付、甚大なる関心を示したり。

(2) グリーン次官補

若くは勿論の事際もあり、一般論は別として、核及び自衛隊に内なる実地海は、吾等がブランク地現に候べきを得ず。

(3) シンソン次官

従来、東京在任中、沖縄問題解決には、先づ旧東側より返還後の基地の地位に付、旧東側の見解を示し、これを先扶はうと述べていたことでもあり、我々の立場を示した以上、これに対する見解を四示する立場にある。従つて、暫定的に基地を「現状通り」として返還を實現するとの方向に、未練を示しつつも、我々提案に対し、速やかに半則の応答を示す気構を示している。何れにせよ、沖縄問題に同じくは、同次官が半政府内部

に於て最も有力なる責任者の一人たるに、強りなく、我々とは同次元に我々の要望を納得せしめて半政府内部取扱いを期待すること加、妥協であらうと思はれる。この点に即し、新西大入一駐日半士使が同次元の推薦により、任命された地視状なる人打であることは、注目を要すべし。

(1) キレンシー大校組補佐官

半政府内部に於て、相當なる発言力を持つるやうな面構である。吉野の事から、グレン問題対処が、魚尾の解決に於て、本元往訪の際も、先づ グレン、次に旧東河に於ける半軍部警備事件に即し、矢次早やに、魚尾を論せしめ、魚尾は印象に残つた。沖縄に同じくは、魚尾から懸念しているが、魚尾の本人自身、我々の検討と考慮を遂げ、長らうとの意であった。

(2) ハロッド少防次官

沖縄問題の理解を充分承知し、居らざることは、予感されたと云ふべきであり、一般論に終結した。

3. 一般的指摘以下のとおり。

(1) 我々、ホドラン・ポイパーは、26日、在任半士使体に手交し、量いたことであるか、其の支持のフロンティアに於ける、魚尾に於いて、特に國務省及び大校佐官の事務官が

同ハロワの要旨に就いては、概して構造的に討議に依り、
其は、既に相方の研究と準備を遂げて来たものと
と見られる。

(12) 我々の立場に於て、核及び自由土庫に拘り、何れも極
め固い反応を示した。その論拠は以下の如く要ら
ず、強固なものである。

- 1. 日本が自由土庫の安全保障のため責任を果すとす
る事は、^国米の手足を縛り、乃至は其の邪魔をする。と云うこと
では、どうしてアメリカ国内に運送を承知させるべきか
と云ふ事がある。
- 2. 日本が運送について、日本の都合だけを並べるのでは
ない。其は「只承知」をして、日本に何をせよと強
うけ付けられるか、と云う気持ちになつて居る。
- 3. 運送により、基地の軍事的機能は低下したと見ら
れる。此の場合に、北米軍備が、これをどう解決するか。北米
軍備の日本国内に於ける改変を判断する必要がある。

(11) 1972年中に運送と云う時期の長については、懸念相手方
の立場としてコメントする者はなかつた。これに
対し、基地の懸念に拘り、今後の話し合いの進め方、
即ちフォーリン・ハロワの第9回の二長に拘り、
半別は、夫が自由土庫について(特に朝鮮半島
を含む) ~~話し合い~~ 軍事的見地から充分

満足を得る了解に達した上、核の問題に^対して
よるとする多分と見受けられる。而して自由土庫に
拘り、話し合いについては、フォーリン・ハロワの第9回(12)
の趣旨に、~~甚~~ 大抵筋米前にも話し合いを進める
用意ありと認められる。

(12) 之れを要するに、ウトナム戦争の現状に拘り、半別
は沖提問題を本格的に進める気構えあり。6月の大抵
筋米の陣には、運送交渉の前途に於て、相手が如何
なる方向を見定め得る可能性あり。その意味において
6月の大抵、平野長官の会議は概して重要なものとなる
と思はれる。

① 日本側は、米ナショナル・セキュリティ・カウンシルは、4月
30日初めて日本問題を議題に供するとのことであるが、
② 今回の懸念は、その意味では丁度よい時期に
備に合ったものであつた。